

衛生組合の現状と課題を調査

令和8年4月28日 福祉建設委員会

北名古屋衛生組合の「鴨田エコパーク」と「藤岡最終処分場」を視察し、し尿処理施設と一般廃棄物最終処分場の現状や課題について調査を行った。

主な調査内容

① 鴨田エコパーク

し尿と浄化槽汚泥を処理する施設であり、現在は汚泥由来の堆肥「鴨田コンポスト」を製造し、住民へ無料配布している。

施設設備の老朽化が進む中、修繕による延命が図られているが、下水道接続後も汚泥受け入れ施設として存続する見込みであり、将来的な維持管理費が課題となっている。

② 藤岡最終処分場

焼却灰などを埋立処分する施設で、現在の埋立率は約64%。現状では今後約13年間利用可能とされている。

一方で、埋立終了後も水質監視や維持管理が長期間必要となるため、継続的な財政負担が発生する。また、新たな最終処分場の整備は困難であり、ごみ減量や広域連携による延命が重要である。

③ 組合運営の課題

組合では将来的な職員減少を見据え、省力化を進めている。しかし、今後の費用負担や施設管理、財産処理など、協議すべき事項が多い。

むすび

し尿処理施設や最終処分場は、一度整備すると長期間にわたり維持管理が必要となる重要な社会基盤である。福祉建設委員会では今後も、施設の維持管理や財政負担の見通し、組合解散を含めた運営体制などについて注視し、町民の皆さまに分かりやすく情報をお伝えするとともに、必要な提言を行っていく。



わたしたちの質問

大運動会

住民懇談会

議案PICKUP

一般質問

委員会報告